

# 筑波大学特別支援教育研究 第8巻の刊行にあたって

筑波大学特別支援教育研究センター長  
四日市 章

今年度も本誌に筑波大学附属特別支援学校の先生方はじめとする多くの方々から、教育実践に基づいた貴重な論文をご投稿頂き感謝申し上げます。本誌は、特別支援教育研究センターの機関誌ということから、第1巻からこれまで、実践的な論文が多く掲載されてきております。一般的に、教育関係の論文では、学術色の濃いものや、実践的な色彩のものとさまざまですが、それぞれのジャンルの論文に特色と意義があると思います。学術色の濃い論文では、研究で得られた知見の一般性や正確さ、また、オリジナリティなどが重要視されます。一方、実践的な論文では、個人や特定の学校などの、具体的な事例をもとに、そこで得られた知見が、次の実践に対して、具体的にどのように活かされるのか、また、どのくらいの応用範囲が想定されるのか、といったことが重要視されます。しかし、人間が苦勞して得た知見として、その重要性に違いがあるわけではないと思います。いずれも、人間が知的な能力を駆使して、これからの自分たちの社会、特に、特別支援教育をよりよいものにしようとする、努力の蓄積です。

一方、論文を作成される先生にあっては、学校での日々の教育活動と併行した仕事であり、記録を取り、資料を纏め、論文として整理し、発表していくということは容易なことではありません。そのための時間を作り出し、エネルギーを注ぎ込む努力が求められます。しかし、そのような活動を通して、自らの教育実践を立ち止まって振り返り、それを整理し、重要な点を認識し直すということは、その先生の、今後の教育実践に対して、大きな意義があると考えます。また、文字に表され、公開・発信された教育実践は、同時代にさまざまな教育の場で指導を実践している多くの人々、また、将来、同じ教育に携わるであろうさらに多くの人々にも、役立てられるものだと思います。文字によって、そのままでは消えてしまう貴重な経験を残すことができます。人間が文字を通して築いてきた文化は、まさにこの活動そのものでもあります。特に、優れた経験的な知見や情報を記録し、これを発信することの重要性は、情報技術が飛躍的に発達した一方、情報への信頼も問われている現代では、さらに大きな影響をもつ、重要なことがらとなっています。

筑波大学附属特別支援学校は、全国の特別支援学校の教育活動はじめ、通常の学校で特別な教育的ニーズのあるさまざまな子どもたちの教育に携わる、多くの先生方の教育活動へも、積極的に貢献していくことが強く期待されています。附属学校の先生方には、それぞれの中に蓄積されている専門的な知識や技能を、具体的な実践例をとおして、できるだけ多くの人々に、分かりやすく伝えて頂ければ幸いです。先に述べたように、そのような仕事を日々の教育実践と併行して行うことはたいへんな努力を必用とするものではありますが、全国からの期待に応えるべく、引き続いてご尽力されることをお願いしたいと思います。附属学校が歴史的に蓄積してきた優れた教育資産を発信し、全国の特別支援教育に貢献することで、附属学校が、全国のリーダーとしての役割を今後も果たして行くとともに、さらに高い評価を得て行くことと思います。険しい道ではありますが、これからも附属学校が一丸となって、優れた教育実践の情報を積極的に発信して行かれることを期待しております。